

美以仲勳功圖會

壹

遠
2508
10-1



遠
2508
1-10

好花堂主人著編
有阪蹄齋繡像



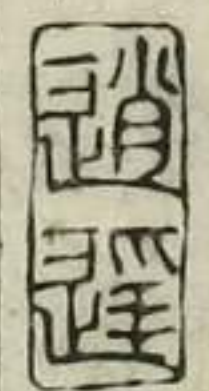
義仲勲功圖會

京攝書林

積玉圃
宝珠軒



義仲勲功圖會叙



嘗聞良將之用兵無不正無不奇使
敵莫測故正亦勝奇亦勝三軍之士
止知其勝莫知其所以勝非變而能
通安能至是哉義仲之用兵也亦然
練卒驍騎行伍齊整決強弱之勢於
機先運勝敗之籌於帷幄是以所向
必靡所討必服其神機致籌未易窺
測彼攻笠原之城用其奇計臨資永
之陣擊其惰歸加之鏖強敵於砥並

走平族於西國可謂風發河決不戰而屈人之兵者也至今兒童走卒皆稱其功惜哉因行家之譖言親戚為寇讎之念有功不賞令虛有尺布斗粟之譏也嗟呼賴朝之不友亦甚矣向無義仲則假令賴朝犄角之勢既成而中原之鹿豕所輒得乎由之觀是義仲之功亦大矣然賴朝其於親戚如此宜哉父子三世不令其終推歸他人之手政出閨房之中遂開篡

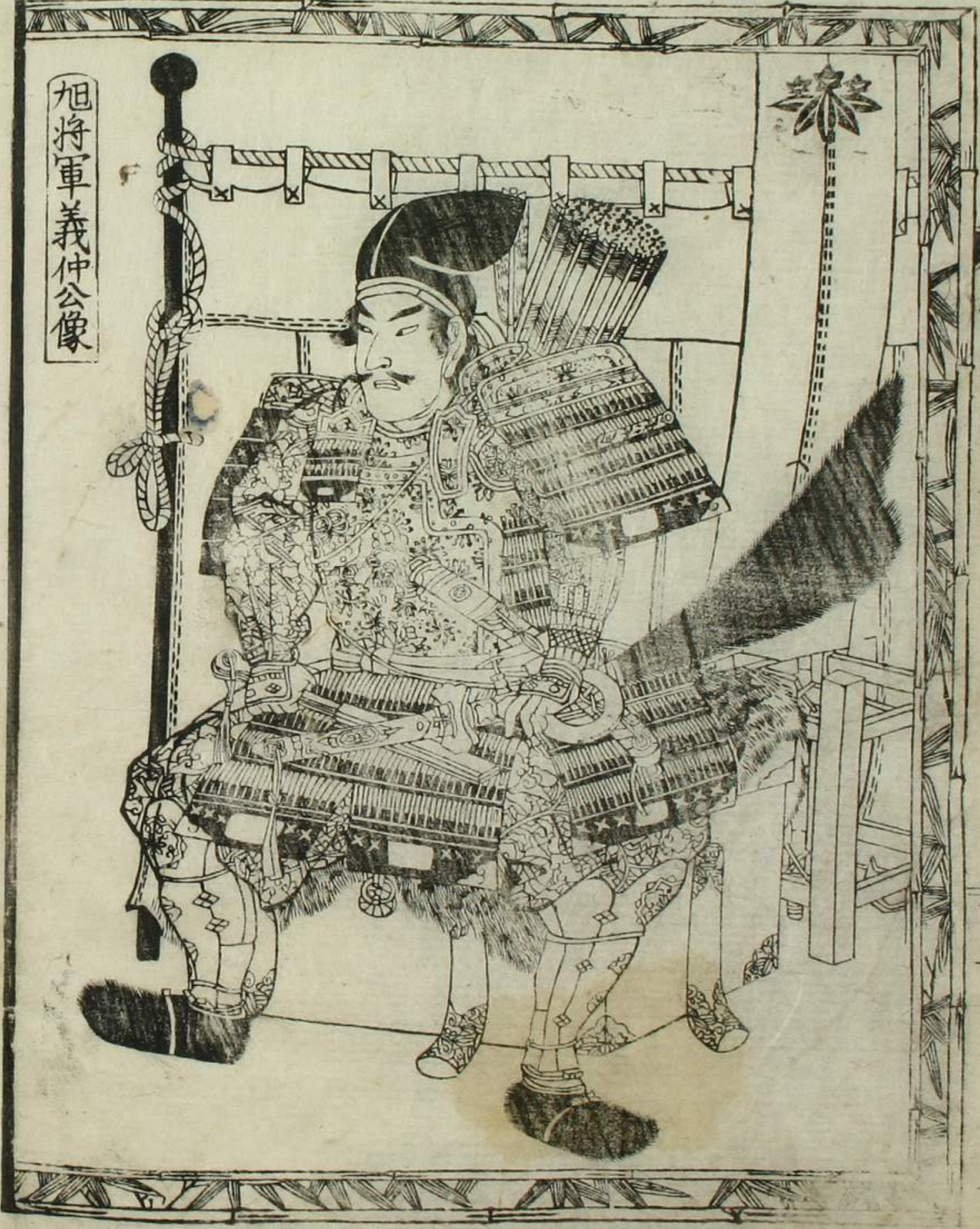
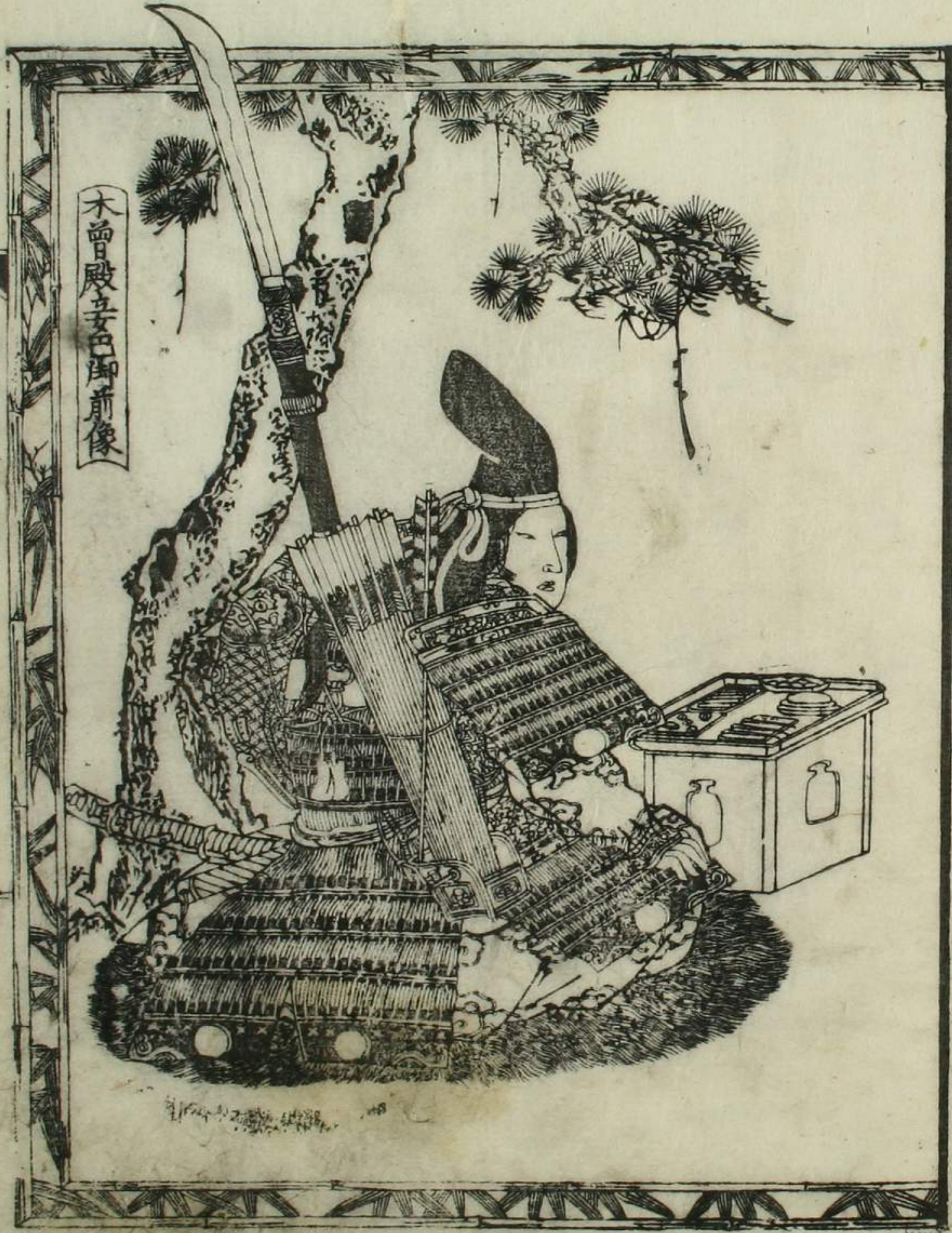
弑之禍是非所謂上以是起又以是終者乎書肆石倉堂曾收義仲記之古本其文辭富瞻叙事似詳而闕如者又多矣益請余因參考於諸史增補是正更加畫圖名曰義仲勲功圖會以備童蒙婦女之覽云爾

皆天保龍集壬辰仲春

浪速市隱

野亭外史





蘇丹國名會一



新乃圖繪前

義仲勲功圖會前編總目錄

卷之壹

幾端 大倉谷合戦之圖

畠山重能救駒王丸 日圖

齊藤実盛預駒王丸赴北國 日圖

実盛死駒王丸於兼遠

美福門院挽崇徳帝 日圖

卷之二

為義初衣鎧贈義朝并教訓 日圖

新院方敗軍義朝誅又

信西入道義朝の願を拒む圖

崇徳院於松山配所崩御 大乘經書寫之圖

信頼義朝乱逆殺信西入道

清盛父子熊野より都へ地上る圖

長田長致弑義朝主臣

志田六郎忠死

悪源太義平伏誅 義平大言清盛を罵る圖

義平悪靈摑殺難波三郎

卷之三

駒王丸幼推奇行

兼遠駒王丸の賢愚を証と圖

義仲惟力制奪牛 日圖

巴女勇力 義仲主臣巴女が勇力を入る圖

義仲与頼朝誓約

義仲与実盛對面并義大虎丸之事

義大悪女年成咬く恩小剛か園

義仲母公死去 觀心房相義仲

根井大弥太勇力乃園

根井又子属義仲

卷之四

教盛見姪夢并重盛逝去

重盛又の入道か春者縁いを練る園

安德帝御即位

高倉宮御謀叛并廻宣

仲綱宗盛か無礼いを憤い不い復

藏人行家傳令旨義仲

木曾間者注進宇治合戦

高倉宮之弟宮赴六波羅 日園

高倉宮之四宮北國御下向

讃岐前司将宮山門小登る園

大夫房覚明属木曾

大夫房討判官兼任園

緒國源氏蜂起

権頭兼遠上京

卷之五

兼遠陳謝呈起繕文 日園

知盛燒之洛板倉城

清盛入道逝去

後緒國京城告急并河野道信之事

河野道信額入道討圖

聖殿川合戰行家敗軍

郷公義田戰并討圖

笠原平吾討木曾使者

笠原平吾佐原十郎五郎刃傷の圖

義仲智略陷堂原之城

根井大跡太武勇堂原血戰の圖

義仲仁智緒將飯降

義仲勳功圖會前編總目錄畢

義仲勳功圖會前編卷之壹

目錄

發端

大倉谷合戰義賢戰死の圖

畠山重能救駒王丸

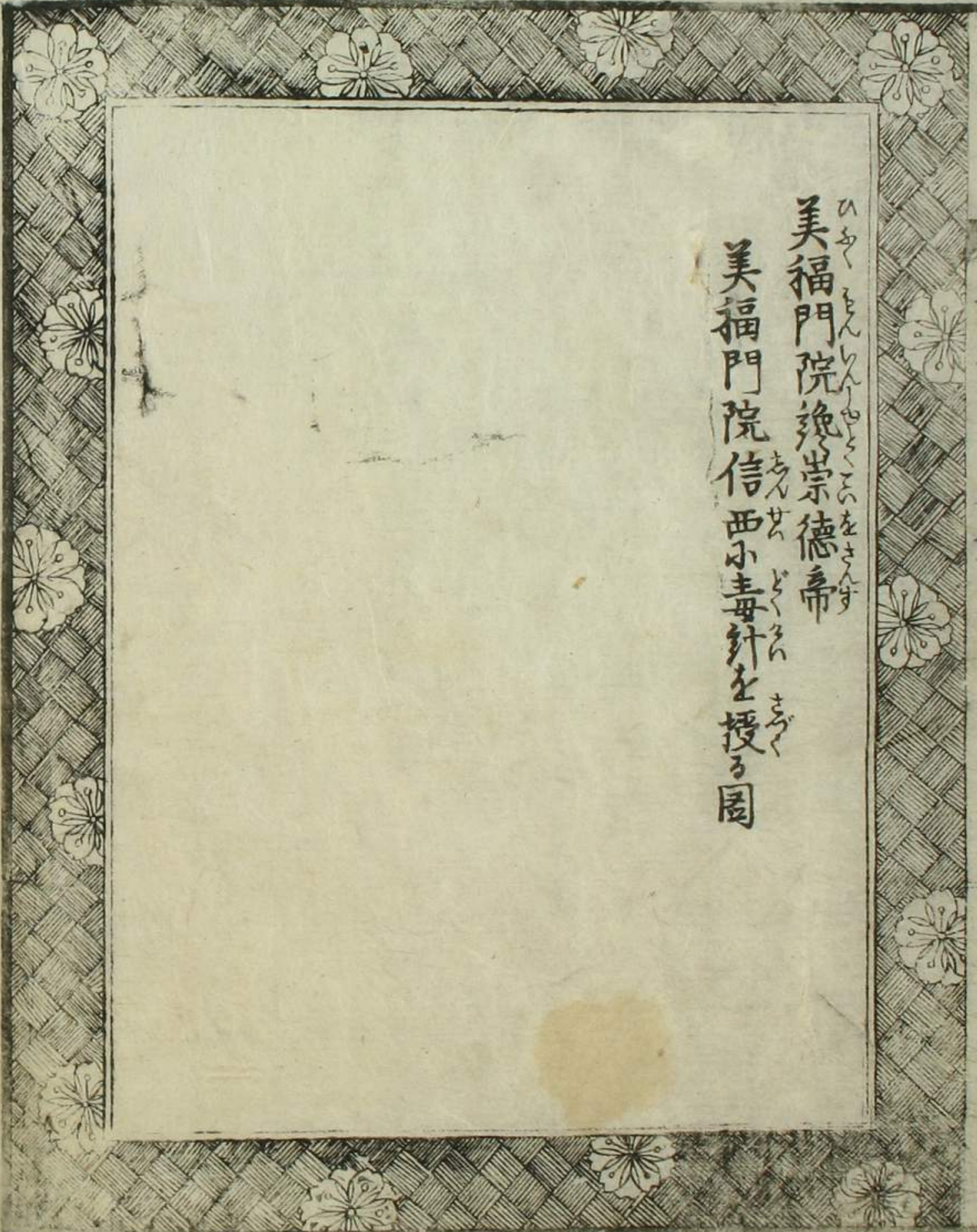
重能西山の民屋を訪て駒王丸母子を救圖

齊藤実盛預駒王丸赴北國

重能駒王丸成実盛小純を討圖

実盛純駒王丸於兼遠

美福門院逸崇德帝
美福門院信西小毒針を授る圖



木曾義仲勲功圖會前編卷之壹

發端

浪速

山珪士信考訂

田氏謂る言あり右者以仁為本以義治之之謂正正不獲意則權推
出於戰不出於中人是故殺人安人殺可也攻其國愛其民攻之可也以
戰止戰身戰可也往昔征夷大將軍從四位下行伊豫守源朝臣義
仲公しゆえん八其身義旗の中より出く一度義旗と北陸道小翻し
威權隆かち平家乃二門を西海小追下し上帝王の震襟と安んじ下萬
民乃金出灰を救ひ奇世乃刃を立むひが不幸なりと逸者の言頭小奴れ
事乃軍功水上の泡と消栗津原の一戦小敗績と一朝の露と消ゆひき
其故を探る義仲乃又を帶刀先生義賢とわく祖先八王五十六代乃
聖主清和天皇乃御孫六孫五經奉る末裔鎮守府將軍八幡太郎源義
家乃四男六條判官為義乃三男なり曾く又乃命とく武藏国長胡郡の

別行 續年 盛



任人秩父次郎太夫重信が養子と成り。此小義賢と兄義朝小枝群家督領地の芳とを遺恨小枝の天晴兄義朝が所領の中鎌倉七卿を我者おせせしやと。折小ぬまの義朝此は成を望んれども義朝も大切の所領を奪ひ。爾義引を其終小枝の義賢大い小望と失ひ快々くと樂まず。此上六又小辨の望を達せんと都上王為義小調しく所存の地を難に辨へる小。為義も是を許さず。鎌倉八又義家草創の地を源家の嫡子こそ領まされと。許せられバ義賢深く父を恨む。此を理不盡の行迹か。鎌倉成押を奪ひ。我領地小せしものと。相望の事非分の義をわひひさ。あはぬ躰あはれを武藏へ送り。俄小手ろ者ども成驅合武具陣々と固させ其勢都合百五十余人鎌倉さくく打立たり。此事早く鎌倉小はえられ。義朝が留守を預り居る嫡子源太義平。其頃といさ。十七才の総角か。天性至剛勇

がうがう
強奪

敢乃若大将かれ。大い小怒り。如何かれ。叔父義賢人倫の道を弁へ。現在巴が兄の領地を押領せし。留守成窺ひ押き。余言緒小絶せ。人面歎心く。其義か。叔姪の因を断敵の寄さ。以前小逆寄。義賢が首を拾切る。と。敦固即時小手勢二百五十余人を引卒。鎌倉を立。進行嘖呼。如何か。変事ぞや。何と。遺恨もなれ。小親に叔姪忽ち敵々の色を顯し。私り同士軍成企ると。更人人間の所業。あ守偏小天上破頃の所為。ゆ。茲小初。源家廢喪の線を表せる。か。後小。おひ合。ん。多。漢土。ゆ。白夷叔世兄弟互小國を譲り。大賢の誓成残。和朝ゆ。ハ大鷲鷄尊茅道推郎子。同胞互小王位を譲り。合聖徳を暉。まひた。先蹤和漢小有。く。三才の嬰兒。ま。御尊。ゆ。小。を。あ。兄の所領を奪。く。伯叔の命成断。んと。薄情。り。去程。小。雨勢相摸國大倉谷。あ。端なく。行合。も。小。勢。を。ま。め。備。を。ま。く。睨合。其。り。

源太義平陣頭小馬を跳せし出る諸人其抄扮を足らふ身小と卯花威乃
鎧着者一内毛の兎を頂た紅梅錦の鎧直垂を著ちて河内乃有成が抄
る石切といふ太刀と左文字の短刀を十文字小佩こつて廿四指の切生乃
征前を管高小負重藤の弓乃真中握り連銭葦毛の俊足小真紅の厚
房の鞞うけ鏡鞍おれり抄袴りてと昔年といひ美男といひ天晴源家乃公
達と骨柄勇々しくどりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
御勢と問どもも知れ叔父義賢との御内人かゝり慥小少く主小報せよか
りよと源義朝が嫡子源太義平なり租風説をさし叔父義賢非分の望を
殺し事の叶はざる憤りて現在親兄の領地鎌倉七卿を押領せんと又
が留守を窺ひ兵馬を指向らるる言を親親親屬をれを更なる進
せしめあまを奈何せん又の命令なれを某が存心はるる言ひて然るも
某若冠たりとも又の留守は預る身の鈍く兵卒を領地へ入てり言甲斐なく

扱こそ是を多く出陣せり。叔父且つ非を悔く勢をまゝと飯國あつた
門の好むぬきひ穩使乃沙汰ふやびを尚強く勢を進められ止るを
得ど伯叔がも国乃仇義平一箭進くと下左右及唇を乗つて報せ
よと鞍坪叩き呼りてれを敵も味方も其弁舌の爽かふと其理非の明白
から小感嘆し天晴若大将やと称美しと女阿を鳴り止まりたり義賢の中
軍小在り是を更悪た重が廣言と元来非道と知し思え一我宿地何
を童子小鏡まきと黙止つた蹴散ると通れと下知をれ緒卒是非なく
領緒一務小阿を非毀し矢先を揃射けりて源太義平大い怒り其
義ならずむ力なり叔父をより一騎も余まを射取とて緒卒小軍令を
傳へけり阿を合し矢を射違女阿と矢軍小阿を撥り多るが双方矢種
盡るに各抄物把り蒐合せ互小知合し二門の門仕軍を恥を思
ひ義を重し一足もさるを鋒より大花を散り切結中ゆり義平を



大倉谷合戦
 悪源太武勇
 先生義賢陣没之回

功の圖會前



善功圖會前

獅子の怒を顕し。三尺五寸の石切丸を抜挿し。高巾を縦横し。踏手挂
 繩十文字大袈裟小袈裟空舟割秘術を盡し。雜廻ふ其さあかかきり。靈
 利支天の荒きあててくれ。其太刀下小向一者一人く生を全うするもの
 なく。屍を横りて毒を乱し。血流く川をた。さし勇し義賢は後年支
 途路小成くんえさるや。義平方八勝小乗踏込る勇戦く。ちんくろ分
 取高名をど頭し。先生義賢と味方の敗色をなす。大い小怒り。正る
 味方為昧る。二門の軍八殊小愧あふものぞ。隊を整く戦。下と下知し。自
 太刀を揮く。近付敵を前後左右小切伏雜仗切ま。緒卒よ。是は小房され
 く足並を直く切進む。されども勇勢といひ勝縛る。義平方が勢切く。突と
 も物くもせと。曳を声を合く。難きろゆ。義賢が勢再び備を亡續八裁小
 切乱され。義賢が憑切く。宗徒の即亦残り。小討き。大将義賢も數ヶ処の
 手成肩ぐれ。今八是まよよし。馬より下立。武具解捨る。義平方の即

後進二郎といふ者。杏小此鉢を刀々。已組伏く首を取くと。韋駄天走小蒐来
 り。義賢の背より大手成廣げ。組付を。義賢嘲り。已不敵なる奴。義
 賢程の者乃生首とく。九泉の僕小召連く。二郎が組伏くと
 あせふを幸ともせと。太刀後放く。腹小く。突まふ。其鋒後小組付し。二郎
 う背か。突貫丸二重腹切く。兩人とも。枕小を斃伏ね。滅小義賢が戦死の為
 鉢前代。例をば。未代。有金。も。覚。惜。か。程の勇將。一旦。意
 地を立抜。無名乃私軍小浴命有。事よと。歎。ぬ。者も。わ。り。多。り。斯。く。三
 將死亡。これ八耻を知。輩。主。小。後。と。敵。と。引。組。差。違。く。死。む。も。あ。り。自。ら
 切腹。も。あ。り。言。甲。斐。り。た。者。も。八。方。落。失。く。今。八。拒。敵。者。一。人。も。あ。ら。ず
 ま。か。義。平。軍。成。り。多。く。勝。鬨。を。上。義。賢。乃。骸。を。士。卒。小。昇。持。せ。鑑。念。へ。敵
 陣。先。早。馬。を。も。つ。此。義。成。京。都。の。又。か。許。往。進。し。義。賢。乃。尸。を。言。提。寺。小
 送り。小。埋。葬。し。寺。僧。小。金。く。厚。く。追。福。作。善。成。言。せ。り。古。語。小。も



カノ間八前



白山重鋳
 義賢乃
 愛妻
 小技殿の
 隠家を
 訪る

魚子園會館

しつ約絨を詐らるるれど妻母子が此家小隠去のぶも早うも人の知むと辨
 人とも人あまきよりや此家成落深山の奥小忍びも何成使何を綱手小世
 を送るべし想ひ適立し言甲斐た賤山推小君を奪はれ此身をも辱しめ
 らるるを憂耻り上の人笑あふべし只君が命を天小任し重能小對面し免も
 角中なるとも仰られぬ乳母も此如何と思煩ひなるとも仰せらるる彼
 人對人小向ひたるとも何きぬ小包と隠とも踏込る君君を亡ひまらべし絨
 小情ある人なるともよかた君君の御後見なりとふきつ女心小定めし只神仏小
 任し御對面せさせしと小技との此一言小胸を定め乳母をかりし重
 能小中させらるる先より情ある御約と漏れぬとせし木小も草小も心成や
 身小の疾小も見進せむと絨小狗玉との抱たれ此を小隠へするなり所狭り
 せされも此方へのせおりませし言せし重能依ひ召具せし家録小向ひ汝小ハ
 万事小心を賦る怪しとかり者きつ小蜜小我小告よと命し乳母が案内り從

ひを入々ふ実も妨嫌若の屋の松柱も斜小不直竹の篔子も凹まらゆも肥
 松乃燈ゆとがりまら板戸も透間多し夜風を防く抗屏風も破く骨
 成頭せり其影小小技との何ふうあらし色あひ定りぬ衣小者も狗王殿と
 搔抱た物小倚りし御坐せり重能一揖し先其人をさるふ此年月の物思
 小やばも景あらしも天乃生る容貌ハ流石小端兩中雨小露る芙蓉乃て風
 成悼む海棠小似く中將との姫君との夜同小ゆとれとまられり重能低頭し
 曰く曰く上と名称も嗚呼とくく之と甚と白山重能と申す故帯刀
 先生乃縁縁の者小栄枯不定乃世のわらひとちやなから故帯刀不慮の一戦
 小黄泉乃客とかりし御身御親子く世小流落ある年月乃物まり左
 社と察しひひぬ並小粗糞まを悪源太との身乃後難を除く小人行
 傍を探り而も亡しとせし海より其親族の身とく他小ん々小忍び小
 人の危死を救ひ進らせんと御又中將卿小錫し御在所を向御消息をも乞

得々持参仕まり。是御覽ごらんし々重能しげの小野おの心こころなれなんぞなんぞな彼消息かのしよせきを
 呈まへしまれまばま小技せうぎのの會あひまひ秋あき々々是こゝろ戎えい年ねん小こりり封押切ふうおしきり續下つづかしし伎ぎ比ひの色いろ面おもて小
 現あらまま嬉うれ涙なみだ押おし拭ぬぐひひ々々重能しげの小向こむかひひひ世よ小使こしやうななれな親おや子こ心こころ小掛かかりり々々危き難なん
 を救たすひひ玉たま々々鳴なる息いき何なにのの世よ小報こしやうひひままののとと死し双ふた白しろ髪かみのの末すえままががりりとと頼たのめててしし
 帶おび刀たがひ君きみ小別こべつままりり々々疾はやいいもも七なな人にんのの數かずふふ々々夫おつとのの迹あとをを追おいいてて思おもははままししもも此こゝろ若わの
 和わびびとと成なるる死し々々事こと々々心こころ小任こじんせせととせせららくく独ひとり歩あゆむむ頃とき々々生あるる一ひと人にんとと惜あはれれ
 々々ぬぬ命いのち延のびつつりり々々見みああつつるる内うち々々もも悪あく源げん太たのの執しやく念ねん深ふかくく若わ命いのち戎えい亡なししととのの
 せせららるるとと是こゝろ又また母ははのの許ゆるぎああらら小任こじん得えるる水みづ鳥とりのの陸りく小送こそうぢ心こころ地ぢ一ひと人にんととよよつつくくるる鄙ひん小
 身みをを必かならず心こころ比ひ昨日きのう今日けふ日にちとと日にち戎えい送そうりり々々今いま力ちからやや敵たか小搜さうしし出でささるる々々りりややとと方かた乃
 透とほ間まかかふふ風かぜのの音ね友とも呼よぶぶ々々とと犬いぬのの色いろ小一ひと向むかひ胸むねのの蛋たまご々々女おんな死し心こころももととららるる々々
 小思こしもも々々をを頼たのむむしし人ひと小遭あひまひままつつととららるる々々はは嬉うれししいいはは是こゝろ偏ひとへ小若わ命いのち運うん強つよくく逝いつつ
 去いつつ亡なしし丈だけのの守まもりりをを小ことととと々々又また雨あめ々々とと歩あゆむむ初はじめめ重能しげのをを疑うたがひひ々々左ひだり右みぎ云い

終ますす一ひと王おうのの男おとこももよよくく小安心こあんしん堵と今いま々々重能しげの小面おもて月つきをを失うひひ茶ちや上じやう菓子こしとと々々
 乳ちのち母はは々々りり小追お従したがふふ々々もも哀あはれれりり重能しげの猶なほ々々寄よりり寄よりり王おうのの寐ね自みづかををああ守まもりりて
 嘆なげ息いき一ひとのの心こころ縦たて襪わのの裡うちをを離はなききままふふれれどど又また君きみ小よよくくもも似にまませせまましし前まへ威い威い者もの々々
 猛まへ死し將しょう相さうをを備そなへへ玉たまりり傾かたくく人ひとととなりなり々々萬まん卒そつのの上うへ小々々又また君きみのの汚お名な戎えい雪ゆき死し
 死しとと祝いわひひはは和わくく抱かかりり々々狗いぬ王おうのの月つき戎えい見みるる重能しげのがが面おもて戎えい赤あか守まもりり完かん示し
 とと笑わらひひ小々々重能しげの弥や哀あは憐れなのの心こころ戎えい増か若わとと母はは公こう小渡わたりり扱ありり々々某その々々尋たづねね参まりり
 上うへ々々片かた時ときもも尚なほ所ところのの御ご任にん居い無な用ようなりなり直ただ小私し郎らう一ひと伴ばんひひままのの世よ戎えい疾い々々とと忙いそ
 せせむむ小技せうぎのの由よし飲のびび小堪かむむとと何なに是こゝろのの物もの々々締ひめめ乳ちのち母ははとと俱いふふ々々出でままししむむ重
 能しげの之の男おとこ小固かくく口くち止どめめ後のち者もの小前まへ後のちをを守まもりりせせむむ母はは子こ戎えい伴ばんひひ躬かたのの私し郎らう
 六む条じやう大だい官くわんへへとと吸すりり々々

後藤実盛伴狗王丸北国條

茲こゝ小武藏むさし国くに永なが井いのの任にん人ひと小各おの名な一ひと郎らう太た丈だけ実盛みさきとと武ぶ士しありり天てん性せい至し剛こう沈ちん勇ゆう

ちやう矢兵衛とらへ向ふ所敵なり。然も仁義五常の道を弁智才も人小
 勝まじふ俊傑なり。島山重能と曰国の好む。年来隔たれ交り
 此れ都在番中も互に行通ひ。さかか親族のくかり。然も今島山
 其身も都在番の任果され本國へ歸る。付島山をも曰伴せし。たり。一
 僕成後へ六条大官かゝ重能が邸宅へ往くと云々。折よく重能在宿して
 眞(緒)互の寒暖畢り。后実盛島山小向ひ某今日来り。と別り。かき
 我も御辺ゆり不在番の任満され。曰伴く本國へ下ら。と思ひ推泰せ
 里不知御辺を控京師小要用なり。有やと云々。重能朋友の厚情を謝し。心
 中不恥と思惟。我一旦の義小依り。狗王の母子の命を救し。世
 も我半ゆり。隠貯育ん。叶ひ。お彼母子を曰道。と実盛と。り。本
 國へ下ら。も義平のり。まえ其憚り。あ。と幸か。実盛ハ智勇人。小勝
 是殊小義乃為ふ。一命成。抱。れた武士。か。此人を頼り。狗王の母子の身

の上を託し。左も右も実盛が所存。小任。彼も為。あ。ハ針。と思
 惟。左右の者。成。遠。け。膝を進。ゆ。実盛小向ひ。先。り。年。來。の。好。を
 捨ら。ま。ど。本國へ曰伴。く。む。と。の。厚。志。を。嗜。し。ま。さ。然。か。其。ハ。今。女
 時京師小所用。あ。ま。此。度。と。和。殿。と。曰。伴。せ。し。と。成。が。但。御。辺。を。見。せ
 重能が。一。命。小。掛。り。頼。へ。路。連。あり。何。卒。曰。伴。く。下。り。む。と。思
 ひ。入。り。た。れ。実。盛。與。醒。負。あ。り。是。と。吏。新。し。た。中。さ。れ。る。と。云。ふ。さ。ぬ。と。弓
 矢。と。る。者。ハ。人。の。命。小。掛。り。頼。と。有。義。成。争。う。度。捨。小。な。る。た。増。く。況。御。辺
 と。某。と。斷。金。の。交。を。結。び。戦。場。小。臨。む。と。暗。の。分。取。高。名。を。捨。て。も。互。小。危
 死。を。救。ひ。合。こ。し。人。も。知。ら。ず。更。なり。譬。々。実。盛。が。首。成。れ。よ。と。云。さ。る。と。も
 辭。む。た。某。が。ず。何。事。小。ま。某。が。カ。小。及。ん。程。の。義。を。た。む。一。命。小。替。へ。り
 頼。ま。さ。い。と。と。義。氣。面。小。見。ま。幻。清。く。や。り。重。能。大。小。飲。り。拜。謝。し。
 早速の承引こそ。希々れ。さ。其。人。を。引。合。せ。や。と。一。間。所。より。小。技。屋。母



子成伴の出。叔実盛小向の此主人小児こそ只今重能頼よの路連子
 其斯と針ひくを不審しむ。今を何をも慮つた。是こそ故帯刀先生義
 賢の遺孤狗王の在。小母御前なり。曾て悪源太義平の身。乃後難を
 慮り暗ふ亡んとせらるる。同統を重能縁味の身。乃他小刀を思
 ひて隠家尋りて迎へ飯りしれども。逆も我手や育んとせむ。小人の為宜
 しく思ひ難成頼てう託とた。是乃小心を若めし。小御辺本
 国下をわたりて願てを死幸なり。足手まひりてを。何卒両
 所を伴ひ下。左も右も。美なり成長あるや。針ひく。生をせ。乃
 鳩思く。洞を流。無據の。小枝の。洞小れ。妻
 身ハ如何なる。艱難小遭。厭ひ。野の。末山の。奥。若
 乃成長とた。や。針ひく。掌。合。実盛を伏拜。鬼神を
 手捕ふ。つた。実盛も。重能。義心小枝の。心中を推量。不覚の洞小

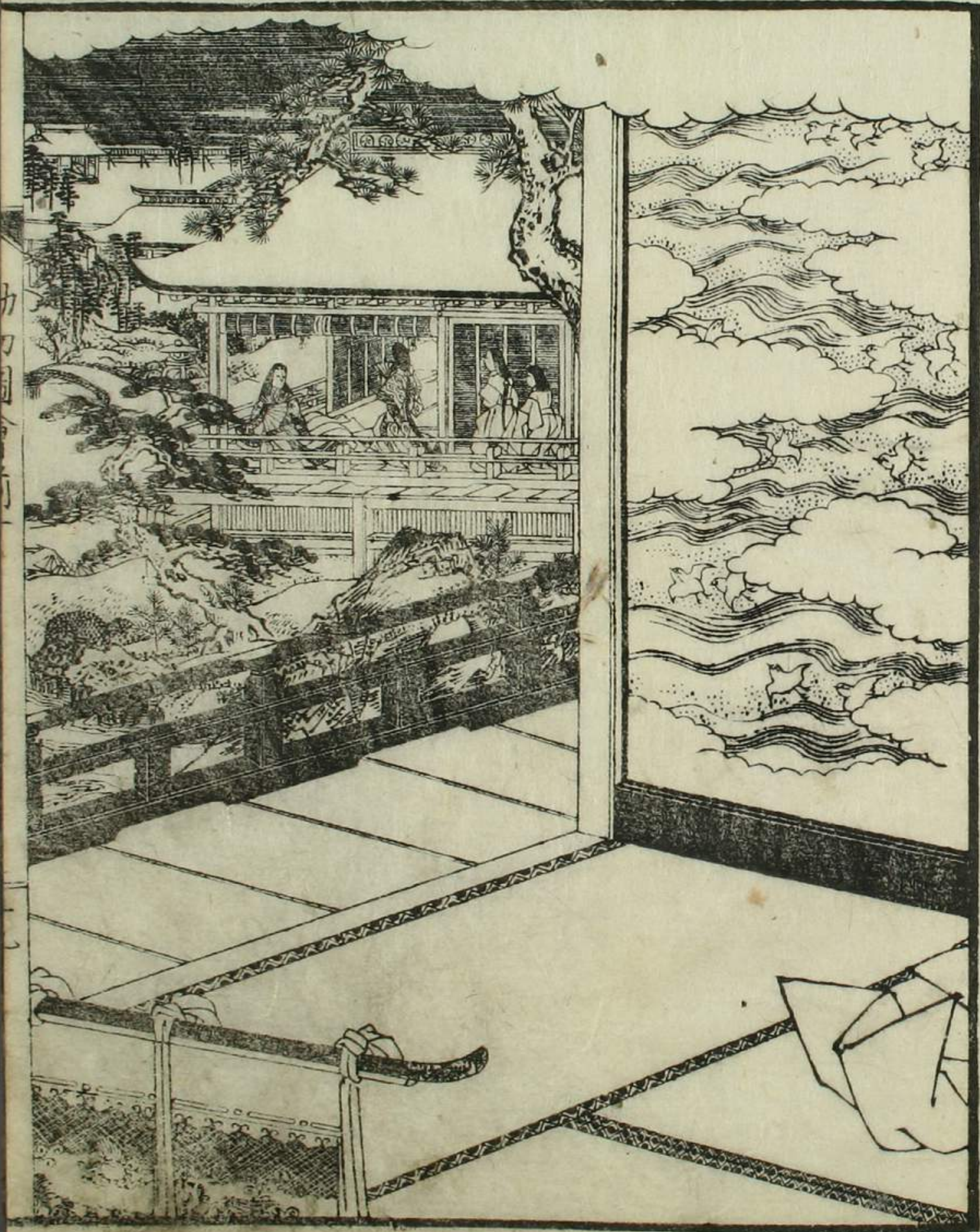
袖を沾。稍撥。重能小向。和殿を武辺。の。猛。勇。武士と
 かり。小情。道。深。御所。危難を救。れ。の
 帯刀先生。一旦の過。其身を。何と根を。枯。程の罪。有
 ん。此小人も。正。八幡。の。四代。の。孫。君。争。情。の。内。あ。七。進
 と。た。心安。れ。御。所。乃。義。と。和。殿。代。り。と。実盛。預。り。人。と。進。せ。と。一。議。お
 も。及。手。系。引。し。れ。む。小。枝。の。ハ。更。かり。重能。も。雀。躍。し。悦。び。勇。を。深。く
 実盛。情。を。謝。し。酒。肴。を。命。し。と。盃。を取。り。献。酬。交。り。玉。容。稍。酔。を。帯。け
 せ。む。実盛。と。別。を。告。其。夜。小。枝。の。母。子。乳。母。を。口。道。し。我。邸。宅。飯。り。多
 が。実盛。心中。小。情。思。ひ。廻。り。本。国。武。藏。を。悪。源。太。義。平。の。武。威。小。康。丸。殊。小。被
 人。乃。家。人。多。れ。む。狗。王。の。成。時。以。育。る。小。使。宜。し。と。萬。一。此。妻。義。平。の。方。へ
 泄。せ。と。奪。捕。ま。さ。く。重能。小。言。い。大。丈夫。の。一。言。相。立。と。され。と。連。家。城。小。を。重。能。り
 狗。王。の。征。兵。を。引。結。か。三。度。五。度。追。捕。も。遂。に。防。禦。叶。ひ。と。し。た。武

邸宅小舟もむれど斯と案内しなれど兼遠即時小立出呼瑠（あはれ）や夜暮
 氏（うぢ）が寒冷の時節素雪（すせう）然多（しかた）の入来何更のいふや先彼処（せんかじょ）も後者
 小命（こいのち）も洗足（せんじく）の湯を勧め客屋小精（せうせい）も茶菓（ちか）成（なり）てくたりの主客（しゆかく）の座
 定（さだ）り別表（べつひょう）の素情（すじやう）を述べ後兼遠（かみえん）実感（じかん）の向（むか）ひて曰（いは）く清（せい）る処（ところ）女性（にょせい）嬰児（えいじ）を伴
 以（も）雪（ゆき）申（まを）成（なり）厭（いと）ふとくも僻地（へきち）（来臨（らいりん）有（あ）り）何（なに）をふ子細（こさい）のいやと問（と）はれ実感
 谷（や）曰（いは）く御不審（ごふしん）をふい今般（こんぱん）某都在番（まがたにばん）の任終（にんしゆう）り本国（ほんこく）（下（か）り）路（ろ）横切（よこぎり）て
 當家（とうけ）へ推（おし）忝（かたじけなく）せし貴辺（きへん）の義心（ぎしん）を見込（みこ）密（ひそ）々（々）頼（たの）み入（い）り子細（こさい）のいなり則（すなは）ち此（こゝ）女性（にょせい）を
 去（き）ぬる八月相模國大倉（さむらゐのくにのおほくら）谷（や）ゆき落命（らくめい）有（あ）り帯刀先生（たいてうせんせい）義賢（ぎけん）の孽妻（せつさい）小枝
 どのふ乳母（うぶ）抱（かか）り抱（かか）り眼女子（めなご）の義賢（ぎけん）の遺子（いし）狗王（いぬおう）のかり然（しか）る小悪源太（せうあくげんた）義平
 後世（こうせい）其身（そのみ）の害（がい）ふもやとく此（こゝ）若（わか）成（なり）尋出（じんしゅつ）亡（な）ぶと謀（ま）られを富山（とみやま）重（し）下
 早（はや）も危難（きなん）を救（たす）ひしりとも尚録（しやうろく）舎（しや）のつゞえ成（なり）悍（はげ）也（なり）某（まが）小（こ）兼（か）育（いく）の義（ぎ）成（なり）附（つ）託（たく）
 せり然（しか）も其（その）領所（りやうじよ）とも鎌（か）兼（か）遠（えん）とも源家（げんけ）の旗（はた）下（か）迎（むか）ひり元満

これに於（お）て小（こ）更（さら）の泄（は）れし治定（ちじやう）されぬ貴辺（きへん）成（なり）頼（たの）み兼（か）育（いく）の義（ぎ）を託（たく）せし為（な）り
 可憐（あはれ）武士（ぶし）の情（なさけ）をかり親（おや）ひま（ま）親（おや）子（こ）しりもわ（わ）りむ（む）り莫大（もくたい）の鶴（つる）思（おも）ひしり
 遮（さ）遠（えん）成長（せいじやう）の後言（のちのひ）申（まを）變（へ）り人（ひと）かを家人（かじん）かを（を）或（ある）と出家（しゆがい）入道（にゅうだう）させし又
 担（か）り後世（こうせい）成（なり）も吊（た）りせぬを盡（つ）し頼（たの）み中（ちゆう）えんを（を）来（き）義（ぎ）小（こ）勇（ゆう）と物（もの）り
 哀（あはれ）も兼（か）遠（えん）重（し）船（ふね）実感（じかん）が義心（ぎしん）を感慨（がいがい）しり曰（いは）く富山（とみやま）とて御（ご）辺（へん）とて武名（ぶな）
 天下（てんか）小（こ）更（さら）英雄（えいゆう）の仁義（にぎぎ）の道（みち）も浅（あ）きね情（なさけ）の程（ほど）も難（たが）有（あ）り兼（か）遠（えん）を初（は）
 鄙（ひ）り田舎（いんや）武士（ぶし）とも思（おも）ひし人（ひと）かを（を）思（おも）ひし遠（とほ）々と頼（たの）み来（き）り成（なり）婚（こん）しり聖（せい）
 人も我（われ）を見（み）せざるも男（おとこ）か（を）と宣（のたま）ひり御（ご）辺（へん）を頼（たの）みとありし假令（いかん）匹夫（ひつぷ）下賤（げせん）の
 子（こ）りりも争（い）う違背（いざむ）とて死（し）増（ま）り況（いは）我家（わがや）小（こ）大恩（おほい）を蒙（あ）りしり八幡（はちまん）の嬌孫（せうそん）
 帯刀先生（たいてうせんせい）の公達（こうたつ）か（を）我（われ）方（かた）より乞（こ）望（ぼう）ても預（あ）りたり度（た）義（ぎ）か（を）親（おや）子（こ）か（を）ハ
 いも恐惶（おそ）守（まも）り進（しん）むと主君（しゆくん）と仰（おほ）れたりと喜（き）悦（えつ）る色面（いろおもて）見（み）る義
 小（こ）も及（およ）びしり兼（か）引（ひ）り乳母（うぶ）抱（かか）り迎（むか）ひ差（さ）倚（よ）り狗王（いぬおう）の面（おもて）を熱（あつ）きとて涙（なみだ）り

小其年都た新院本院た乃御争たひ出たきたりて源平兩家の人々御所方新院たと
 引た分たし又子兄弟た姪た忽たち敵たとたり互た小鋒た尖たを争たひ鍋たを削たて和漢たり
 例たを定たさる大乱たとたかりたり其濫觴たを尋たふ小先帝鳥羽院た去たる保た安た西
 年正月廿八日御壽二十歳た也弟乃官た頭た仁小萬乗た乃宝位たを讓たりせたりた
 後小是た成た崇德院たもた續た岐院たもた中たをためた此君たなりたされたも天下の政勢た鳥
 羽法皇た少た召たれたせた又夫たより又星霜た推た移たりた保延五年五月十八日た鳥羽法
 皇乃た寵た妃た美福門院た各た得た子た左た大臣た後た原た長た実た公た女た乃御腹小皇子た體た仁た御誕生たりたれた上
 皇の御悦たび斜た方たむた御た寵た愛たの余たり春宮小たまたせたれた天た暗た人たなりたむ
 十善乃帝位た成た副たさたるたの睿慮た出来たさせたれたり此た寵た妃た美福門院た其
 容貌た端た爾た衣た通た小町た日た面たを覆たひ王照施た西たも姿た小愧たてた程たの美夫人たを
 其内た心た晋た穢た妃た陳た乃夏た妃たが如たれた性た小た妬た心た深たく奸毒た乃女た姓たなれたむ
 皇手御誕生た在た一日たより天た暗た當た今た小御過たもた法皇小たやた御位たとたせた吾

腹小降誕た有た皇子た乃十善た萬た乘た乃天子たと仰たれた自國母の權たを擅たすた心の
 低小榮た花たをた突たした惡念た茲た小萌た時々た當今た乃御行迹たを惡たさたるた奏たし
 且た當時た乃博士たとたせた女納言た入道た信西たをたかたりた其身たの宿望たを達たせん
 種々た惡計たをた合たせたらたむた怖たしたるたれた浸潤た乃た潛行た乃た層た受た乃
 懇た遂た成たるたもた息明た睿智たの法皇たも美福門院の嘗た古た信西たがた飛た舟た小惑
 されたれた當今たを惡たした疎たんた下た遂た小永治元年乃冬十二月何乃過失たもたりたまたこ
 ぬ當今た乃宝位たを下たしたるたれたもた崇德院の皇子た重仁親王た成たり退
 院たとたちたりたぬ是たより鳥羽院を本院と稱たし崇德院を新院とたちたりたぬ実
 由たさたるた御過たなりたて帝位たを下たれたれた新院乃御憤たり深たく是た皆た繼
 母美福門院たがたびた信西た入道たホたがた逸た奏たの所た為たれた如何たもたりた此た惡たを
 報たせたるた也た晝夜たの御た爵た念た絶たるたるたもた腹た患た乃た痛た小胸たをた焦たしたるたを理た由た



美福門院
 小納言信西
 心成合せ
 新院を後
 奉子図

蘇乃圖會前

痛く痛く。其後久壽二年の夏の比。近衛院御心地倒れ。見
 えさせぬ。本院を始り美福門院の斜方とせられた歎せぬ。和氣丹
 波の典薬頭仰ぐ御医療怠り。緒社緒山小畑新の奉幣疾病即滅
 の御修法。事殿を。露其強も。其方。人の手
 小汗を握り。三伏の夏過秋の涼風を御快復り。夫と頼小看病
 なり。小程。九夏の天も。秋立雲。御脳重らせ
 む。おれ。色小はけて。頼も。おの音
 小御身を比。残る暑の堪。げ。七月下旬。清涼
 殿の向小移。れ。今。早御心細く思召御悩の中。小
 虫の音のよ。過。秋を惜。身。消ぬ。御製
 く。縁。七月廿三日。遂小崩。せ。室。十七才。最。む。登
 死御齡。法皇女院の御歎。聲。小物。錦帳の内。小平伏。紅の

涙小御衣を漫。天小悲。地小歎。道。女房達。涙小
 掻。種。練。有。果。事。御送葬の儀式。殿重
 小。繕。一。堆。の。主。たり。世。常。人々。ち。ま。ま
 かり。非。情。草木。お。露。と。覚。れ。新。院。此。時。を。得。我。身。再
 び。帝。位。を。踐。り。小。御。子。重。仁。親。王。を。帝。位。小。即。ら。と。年。来。り。御
 爵。憤。を。お。志。し。御。心。中。小。伊。勢。兩。宮。加。茂。石。清水。を。祈。らせ。む。ひ。く。待。續。さ
 せ。御。坐。せ。り。朝。庭。の。百。司。百。官。も。皆。ち。有。り。死。事。小。かり。ひ。ぬ。法。皇。も。深。た
 御。歎。小。沈。せ。む。い。も。天。下。一。日。も。主。なく。ハ。叶。ひ。と。帝。位。を。重。仁。親。王。小。こ。を
 副。と。と。れ。と。お。御。口。外。を。と。と。れ。と。其。御。色。目。と。と。れ。と。女。院。は。世。小。妬
 死。事。小。思。召。信。西。入。道。小。密。小。招。死。寄。何。更。く。密。を。小。示。し。合。せ。む。其。翌
 日。信。西。本。院。の。御。所。へ。参。候。し。左。右。の。人。を。拂。ひ。後。一。個。の。匣。に。法。皇。の。御
 前。小。置。眉。小。鬚。を。奏。し。多。く。臣。昨。日。御。所。へ。参。内。し。り。の。飯。各。揚

明門を通りいひし地中より怪気立昇り（ひそかに）潜堀穿せし（ひそかに）此相成り
 出（よす）し四隅を釘附（つ）し引放（ひな）し改めし（ひな）の雛形（ひな）の體仁（ひな）の二字成書し
 五躰（ひな）小釘を刺（つ）し入置（は）む。是終（ま）む。帝（みかど）成（な）り。是成（な）り。是成（な）り。
 考（し）いし。恐（おそ）妻（つま）更（か）ふし。當（あ）今（いま）崩御（ひろ）の砌（ま）より。新院（にいん）の六緒人（むくし）賑（に）し。入（い）て。
 恰（あ）も嘉節（か）を祝（い）し。なるが如（ごと）く。世（よ）上（かみ）六涼暗（む）む。萬事（ばん）慎（しん）がらふ。のし。新院（にいん）の
 御所（ご）の聊（い）も憚（おそ）る色（いろ）なり。御慶（ご）の多（おほ）し。と。と。新院（にいん）御位（ご）を當今（あ）し。讓（ゆ）り
 らせむ。い。遺恨（い）小思（お）召（め）。咒（ま）し。せむ。い。い。なる。か。大事（だい）怪（あ）忽（と）小陰（こ）
 なる。つ。死（し）を侍（ま）し。れ。も。臣（おん）が思（お）意（い）ふ。秘置（ひ）置（ま）し。い。も。睿（えい）賢（けん）小備（ひ）なり。い。と。邪（よ）
 弁（べん）成（じやう）遅（ち）う。と。奏（そう）し。多（おほ）。法皇（ほ）聞（き）食（じ）雜形（ざ）を見（み）し。より。御身（ご）の毛（け）堅（か）ち。殊（こと）小
 逆鱗（さ）は。と。叔（し）體仁（たい）が。朋（とも）の。新院（にいん）の。所（ところ）為（な）し。小寃（こ）り。と。急（い）死（し）武（ぶ）士（し）小命（こ）し。と。新
 院（にいん）を擡（た）ふ。土（つ）佐（さ）小（こ）。隆（た）ふ。小（こ）。遠流（えん）の。汝（なん）汰（た）し。其（その）惡（あく）事（じ）小（こ）。如（ごと）唇（しん）せし者（もの）も
 僧俗（そう）を嫌（きら）む。と。重（おも）く。刑（けい）と。と。敦（とん）園（えん）荒（あ）く。宣（のたま）ひ。し。信（しん）西（せい）大（だい）の。是（こゝ）を。制（せい）し。

なり。是（こゝ）ハ。狂（くる）々（く）。勅（ち）掟（じやう）ゆ。候（ま）ふ。い。も。慥（た）小（こ）新院（にいん）の。御所（ご）為（な）し。と。定（さ）り。難（がた）
 く。い。小（こ）。荒（あ）々（く）。死（し）御政（ご）敗（ぱい）を。わ。し。小（こ）。新院（にいん）の。如何（いか）なる。義（ぎ）を。思（お）し。せ。う
 乱（らん）き。民（たみ）の。歎（なげ）れ。と。成（な）り。と。量（りやう）が。と。い。只（ただ）。と。と。我（われ）知（し）召（め）。と。と。躰（たい）小（こ）。新院（にいん）
 の。御行迹（ご）成（じやう）窺（のぞ）ひ。小（こ）。愈（い）隱（いん）謀（ぼう）の。御企（ご）中（ちゆう）。まさ。其（その）時（とき）左（ひだり）も。右（みぎ）も。計（は）せ。む。
 と。練（れん）も。小（こ）。と。法皇（ほ）も。流（なが）石（い）御子（ご）の。と。た。れ。を。惡（あく）し。と。思（お）言（い）中（ちゆう）。又（また）御（ご）慈（じ）愛（あい）
 の。御心（ご）も。出（い）来（き）。信（しん）西（せい）が。練（れん）小（こ）。任（ま）せ。事（こと）穩（ん）使（し）小（こ）。と。い。ぬ。され。も。重（おも）仁（に）親（おや）王（わう）
 を。御位（ご）小（こ）。即（す）せ。む。と。の。御心（ご）愛（あい）し。と。難（がた）。と。即（す）位（い）せ。と。と。御心（ご）逢（あ）ひ。女（に）院（いん）信（しん）
 西（せい）小（こ）。召（め）。と。と。蜜（みつ）小（こ）。御商議（ご）ある。小（こ）。女（に）院（いん）類（るい）小（こ）。新院（にいん）の。御令（ご）弟（てい）四（し）中（ちゆう）。推（お）し。を
 帝位（てい）小（こ）。勸（か）。と。と。信（しん）西（せい）も。其（その）尾（お）小（こ）。付（つ）四（し）中（ちゆう）の。御行迹（ご）人（にん）君（きみ）の。様（さま）小（こ）。合（あ）ひ。と。と。
 只（ただ）。管（かん）称（しやう）。俱（く）小（こ）。勸（か）。と。と。奏（そう）し。と。と。法皇（ほ）も。御心（ご）決（け）し。遂（す）小（こ）。王（わう）位（い）を。四（し）中（ちゆう）小
 定（さ）り。と。と。抑（お）此（こゝ）四（し）中（ちゆう）と。中（ちゆう）。故（こ）待（たい）賢（けん）門（もん）院（いん）。名（な）。璋（ちやう）子（し）權（けん）大（だい）誓（せい）。の。御腹（ご）小（こ）。降（か）誕（たん）し。と。と。新
 院（にいん）と。ハ。一（いつ）腹（ふく）の。御兄弟（ご）弟（てい）と。美福（み）門（もん）院（いん）の。御為（ご）小（こ）。と。小（こ）。御（ご）繼（けい）子（し）な。れ。と。と。重（おも）仁（に）親（おや）

王の王位小即ちむくみと猪まぐりも筆をたれり御坐り四宮成帝位小勸しより
 むくみん、噫呼は何なる世の中ぞや、天照皇太神より継躰連綿の天津日
 嗣の宝祚定を三公九卿列席の上より定めむらむと、二丈人の侍言小惑され
 手成及むが如法皇の睿慮を歎けり、又浅猿より彼兎咀の難
 形も女院と信西の悪計なるを明智の法皇悟む、あまも王道是より衰
 武臣朝権を奪大乱の萌かりと、後おそかり合されるる

宇治左府新院勸謀叛條

程なく其年も暮る。翌れど久壽三年の春も成ぬまきも。新院小宮も
 心頼小樂と思召るる御望叶ふと、かりひもよるぬ四宮帝位を踐むひら頼
 綱も切景の御心地、まは是も女院信西が奏奏小れり、と史食以
 前の御爵憤百倍と、御文本院も御申悪くなせむ、此上右祖を
 合染鋒をたつと、重仁を二度帝位小即ちむくみと止むと、幼て御隠

我思をせむ御理と、ちやなぐ、偏小天テの御心小入替り、まふとも、時小令
 年四月廿七日改元有る保元々年とぞや、然るも五月の比、鳥羽院御
 違例あり、假初のち小病卧させむ、い、去、年、の、秋、道、清、院、小、別、させむ、い
 御愁傷の積り、次弟小重らせむ、い、れ、當、今、を、り、満、朝、の、公、卿、大
 の小松らに強だむ、典葉頭小仰、和漢の良葉を勸なり、諸寺諸山の
 碩徳小を勅を下し、大法秘法を修せ、り、ま、され、と、日、々、小、頼、む、と、あ、く、足
 えさせむ、美福門院と御歎の余り、六月十四日、鳥羽の成菩提院の御
 所む、さ、も、艶、や、か、る、緑、の、御、髪、を、剃、させ、む、且、之、偏、小、本、院、の、御、違、例、平
 癒の御祈願と史え、されども定まらぬ御妻あや、露許も其強なり、七月二
 日、と、ち、小、鳥、羽、の、安、樂、壽、院、も、雪、隠、あ、い、ぬ、御、齡、五、十、四、あ、く、と、せ、あ、や
 悼、や、い、ろ、九、五、北、関、の、内、羅、綾、錦、繡、の、褥、小、起、卧、あ、い、女、御、宮、犯、且、夕、小、傳
 記、を、呈、し、御、身、の、い、ま、も、衰、老、の、御、年、と、す、め、御、坐、ま、る、と、幽、冥、の、使、と、辭、し

あふりも難く常々風小誘ひまゝ一朝の露と消ぬひし。惜しくは御
 変々々々。當今後白河院をもちたり。三公九卿百官百官歎た悲々。一天
 極暮る日月光を失ひ心地いひ下萬民を只父母を亡びて。増々況
 女院の御歎如何とや。去年の秋と。十歳と。初ぬひ。皇子近衛院の別
 まぬひ。御衣の乾くまぬかぬ。今又比目の御契浅く。法白。後ま
 むか。嫉妬好悪の心も歎た。弱。果。世。無。端。を。恨。ぬ。ひ。多。る。茲。小
 其比。治。左。大臣。頼。長。公。と。ま。え。一。知。足。院。禪。閣。殿。下。忠。実。公。の。三。男。あ。り。時
 の。關。白。法。性。寺。大。納。言。忠。道。公。の。御。舍。弟。なり。天性。濶。達。大。量。あ。り。王。佐。乃
 才。成。懐。ぬ。ひ。一。兄。忠。道。公。乃。詩。歌。管。絃。の。道。小。長。手。跡。不。堪。能。なる
 を。蜜。小。賤。里。それ。詩。歌。書。画。の。小。枝。と。太平。剛。推。乃。器。物。なり。朝。政。を。正。し。万
 民。を。安。ん。ど。ふ。要。技。なり。苟。も。朝廷。乃。忠。臣。と。ん。者。是。小。耽。王。嗜。魚
 々々。只。礼。義。を。重。ん。一。聖。賢。の。道。を。学。び。治。國。平。天。下。乃。要。を。旨。と

と。ぐ。と。若。冠。乃。頃。博士。小。納。言。入。道。信。西。を。師。普。く。聖。經。賢。典
 を。学。び。究。む。小。天。性。乃。俊。才。か。れ。一。成。ま。十。八。察。一。中。成。叩。く。兩。端。を
 知。り。一。程。小。乃。信。西。の。言。を。卷。く。琴。歎。を。も。る。度。々。なり。頼。長。字。斐
 僅。四。年。い。る。ふ。一。信。西。が。秘。と。る。處。の。温。奥。を。悉。く。敲。ぬ。ひ。一。信。西
 惘。然。と。心。中。思。ふ。多。く。此。人。の。智。才。我。能。乃。ぶ。た。ぬ。あ。ら。む。此。上。弥。切。磋。乃
 功。を。積。む。遂。に。我。名。譽。を。此。人。乃。も。小。奪。り。我。身。君。臣。乃。義。へ。ん。と
 必。然。と。不。如。言。成。り。其。心。成。驕。り。せ。学。業。成。心。と。は。あ。ら。む。其
 折。成。親。ひ。多。く。一。時。信。西。字。治。殿。付。候。四方。八。方。乃。物。語。の。次。不。斗。龜。ト
 と。易。ト。乃。勝。劣。成。論。ト。出。信。西。易。ト。乃。勝。き。り。と。一。左。府。乃。龜。ト。乃
 方。勝。き。り。と。曰。ひ。互。小。和。漢。の。諸。書。成。列。故。事。と。奉。け。ら。ひ。問。答。數。割。小。及
 ひ。多。く。遂。に。信。西。説。決。ら。ま。り。無。念。あ。ら。む。伴。と。感。嘆。一。誠。小。君
 乃。博。学。廣。才。愚。老。か。た。く。死。小。あ。ら。む。王。政。を。依。け。朝。家。成。補。佐。一。小

余りあり。此上小御学文致勤り属すむる却る辟する御心生下。自然御身
 の災成醸し申す。今ハ学業由是中ぐやしく止す。せむと倭音を以
 と稱美し。頗る宇治殿を退出し。多々が。茲忌悪の心称増り。鳥羽上白王の御
 前へ出る毎小頼長公の行迹を疎傍し。中々と。彼人聊ら文学致自負し。
 兄忠道公然ら。朝廷の諸臣を直下し。皆君の御為世の為か。多々を
 乃才成懐々る者一人ゆり。必竟今春平無敵乃世にれを。今中あれ
 天下の乱出来を。頼長の他ハ朝廷を傷。乱逆を鎮し。も有。つと
 廣言せられ。是偏小君の息電厚く。去ゆる久安六年。氏乃長者不補し。
 引續く仁安元年。内覧の宣旨を行し。申。横政関白を。三公小内覧乃
 宣旨以下。前代例を。其。諸人頗る中。小重。りて
 乃。小。より。自然我慢心生し。斯荒涼の行迹。出来。とお。以後
 と。彼卿の心。驕り。成。刺。し。む。終。よ。不。側。の。政。事。も。出来。い。登。り。な。と

絶奏し。これ。上皇。も。敏。で。思。召。を。れ。と。六。か。く。宇。治。と。の。残。跡。と。申。御。心。生。下。
 今。近。の。君。電。何。う。裏。れ。を。宇。治。殿。も。是。信。西。女。院。と。心。を。合。せ。絶。奏。せ。り。
 申。な。り。と。早。く。も。推。し。天。晴。時。節。を。待。つ。此。恨。を。報。せ。し。もの。と。内。々。思。ひ。れ。け
 る。珠。小。新。院。の。御。所。親。し。く。奉。仕。折。節。八。直。宿。し。御。徒。進。を。語。り。慰。め
 ら。ふ。と。新。院。も。御。心。小。思。召。企。む。り。あ。ま。む。と。死。味。方。を。ゆ。り。と。別。々。眩
 しく。り。か。り。申。し。後。々。ハ。密。々。小。徳。謀。を。仰。合。され。り。然。る。小。今。年。本。院。崩。れ。
 せ。む。と。頼。長。幸。究。竟。の。時。節。到。来。せ。り。と。急。に。新。院。參。候。し。や。され。り。ハ
 兼。々。上。下。が。り。君。十。善。の。帝。位。小。備。り。上。皇。乃。尊。跡。を。称。せ。れ。申。上。と。皇
 子。重。仁。親。王。を。王。位。を。知。召。せ。ら。れ。女。院。信。西。亦。か。内。奏。小。り。何。の。故。由。も。死。四
 宮。小。位。を。超。られ。申。し。御。又。子。も。世。小。言。甲。斐。を。り。日。陰。の。御。身。と。な。せ。申。ふ
 こと。偏。ふ。り。の。倭。女。奸。臣。乃。毒。舌。より。出。る。処。ふ。れ。れ。も。本。院。御。在。世。の。中。御。考
 行。を。思。召。空。しく。步。過。さ。せ。申。ら。れ。も。今。既。小。故。院。雲。隱。ま。り。上。六。君。天。下。の

非義を糾とがし。今上の御位を下し。重仁親王を室位小御むろみありしも何なんう悼おぼふはき。
 是天照皇太神の神慮かみあり叶かなひ世の人望しんぼうあり合義あきぎ小こ忠ちゅうた内うち々々御加みか膳ぜんの武
 士を召まき。年来ねんらいの御爵胸みしやくむねを用もちせしと勸すすめされしを。ぬぬぶぶ北きた々々を
 過とし。と思召おぼしる。新院しんいん薪かき小こ油あぶら成なり洒しみぐぐ。大おほ小こ御喜ごき悦えつあつつ。潜ひそ小こ緒つ国くにの武
 士し召まる。中ちゆうのちゆう六りく条じょう判官はんくわん為な義ぎ源家げんけの棟むね梁りやうとと。子息しよしきもも多たくく。一番いちばん味
 方かた頼たのむむ。度々たびたび御使ごしを遣つかれれ多た小こ為な義ぎ如何いかおおひひ之の固かたくく辞ことししとと奉ほうままふふを
 強かたく味方かた小こ屬ぞくせせとと重おもくく左馬さまた権頭くわんとう実清じつせい成なり御使ごしとと。為な義ぎ宿所しゆくじよ遣
 し。北きた支し何なに時ときし。世よ小こ泄しやくく京中きやうちゆうの貴賤きせん光あき若わ。今いまもや兵へい乱らん出で来きるる。強かたく
 強かたく資財しよさい雜具ざぐ成なり東とう西せい小こ運うんびび老人らうじん稚子しよし成なり肩かたくく南なん北きた小こ奔ほん走そうし。上かみ下しもど
 源みなもと為な義ぎ系けい候こう新院しんいん御所ごじよ條じょう

有あり。皆みな弓馬きゆうまの道みち小こ暗くらくくと。嫡子ちやくし下野守げのしゆ義朝ぎぢゆう。二男になん帶たい刀たう先生せんせい義賢ぎけん。先達せんたつと
 此こゝ七しち弟てい三さん女にょ子し。四男しよなん四郎しりやう左衛門ざゑもん頼賢らいてん。五男ごなん掃部そうぶ助すけ頼仲らいてん。六男ろくなん八加はちか茂しげ六郎むろ為
 宗むね七男しちなん七郎しちりやう為成なり。八男はちなん鎮西ちんせい八郎はちりやう為朝なり。九男くなん源げん九郎くりやう為仲なり。各おのづか血ち氣きの若わか大
 將しやうなり。又また為義なり八はち齡ねんハハ己こゝハハ七しち旬じゆんハハ及およぶぶ。今いまハハ致仕しよししし心こゝろの終しゆう承じやう老らうを養やしなひ朝
 夕せきふ風かぜ月つきを歌うたひひ々々小こ或夜あるよの夢ゆめハハ先祖せんぞトト相傳さうでんの計かゝり宝たから座ざ衣い薄うす金かね無な捕とハハ龜
 月つき數かず日ひ數かず沢たく深ふか膝ひざ九く々々ハハ領りやうの鐘かね友切ともきり長なが須す切きり小こ鳥とりトト二に振ふの太たい刀たうを宝庫たからぐら
 小こ篋かた置おくく。忽たちちち旋ま風かぜ吹ふききとと。右みぎの重おも蓋かきもも四よ方かたハハ私散しさん行ゆき方かたとと成
 々々れれ。為義なり大おほ小こハハかからられれ。是こゝを把と留とどめめととせせ。小こ悻せい然ぜんとと。夢ゆめ覚さるる。為義なり忙いそ々々
 とと。借夢かかのトト成考なり考かんがふふ。甚いたくく心こゝろ小こハハ映うつるる。樂たのししみとと。其こゝ日ひ忽たちちち新院しんいんトト御使ごしありと報うべべとと。再またハハ眉まゆ成なり聲こゑ。又また院使いんしの入い来きハハ何
 事こと小こやと訝いふふ。俄いにに衣服いふくを改あらむむ。御使ごし小こ對面たいめん。敬うやまま院命いんめい成なり承じやうふふ
 院使いんし実清じつせい正せい芳ほうトト昔むかし日ひ新院しんいん何なんの御過ごか失あままりり小こ美福みふく門かど院

の内委小依く王位成削らき僅三才なる近清院小室位を超られぬ然も
 天子の不義を討つむい近清院崩御有上新院を重祚させらるるさ
 ぐの宮重仁親王を御位小即ち再度女院信西ホ法皇仁感
 文の中あむ武中あぬ四宮成天下の主となりあつて頗る新院憤り思
 りぬされも故院御在世のあひびと御親子の礼を重んじ御爵憤を
 二月日成送りあり然る小法皇登霞の上新院天下の僻事成御
 有んと思ふこと存在先達より度々御辺を招れあつて事成左
 右小託くいし院忝せれど依て再四某をりつ招せあふ処なり速り
 院忝し御頼ふ應せれいと申すれど為義とと低頭し身不肖の為義
 殊小老表仕物の用小まがた廢者を人々し思召度々の御使身
 小とりくの面目小い去か仙羽晏駕よりお二月を過いさるり
 于成動し民を煩せむこと恐なり御慎なり御行条あり又母の喪

小三年齒成見ことを中いと御慎なりまさびの諒圖の中追福
 作善の御言あるれ小現在日袍の當今成傾けむとの御企と天魔の所
 為くと思れ周う恭伯三度國家を弟う王季小讓を迹を隠し至徳の
 譽成萬代小残し免道推即子と兄皇子小帝位成勸し自裁し孝弟
 を百世小示しむを女院信西小御恨の糸やを御忌景
 罪成糾む之小難く妨ぐ院を宇治の左府を平日小親く参りむ
 小博学廣才の頼長公を不側の御企を風練けむ不審小
 いし色成正を中される小実清を推及し流石と武家の棟梁なりあり
 中さるる処悉く理り至極なり去り君の御企も無據御事小や免
 道殿も臣下の練を御許容なり自他も多年の御爵憤を暗しむ乙
 一の御事なれむ善悪とも小君小従ふ臣下のならむ已更を得御加
 誓中とろく強を捨弱を扶る勇士の常とや何卒是を非曲て御

味方小参れい但貴辺先達君御在位の中將軍宣下望されけ
 る成聊障る吏有御免許なるを遺恨小サの度う御召成辞退
 中さうり將子息義朝内裏の御味方小参りれ又子敵味方と引
 別事成物憂みの辞退せうやと難む為義完示と才突是と吏
 新し仰成承りり孔子も成事不説遂事を不練既往不咎と説と
 名。為義荀も源家の惣領る身あ。奈何と女重のく通ふ過去事
 成念と仕る。最先達老後のサの出將軍宣下願ひなれども勅
 許なく其後祖父頼義が任國を伊豫守に願ひなれども地下の檢非違
 使より豫列拜任の例なく許されども又義家が任國を陸奥守を望
 中いもの彼國守ふ者汝が家あ先蹤不吉なりと御免なく加之末子ハ
 即為朝筑紫ゆく我意の働ありと。為義が檢非違使を解官させし
 ホと聊天恩薄たふ似い。某ふあ。君成恐むなる乃心毛頭い。其證

迹之先達内裏より度々召して固く辞退仕り参向仕るが
 中も察し且思息義朝内裏へ去れども又子息愛の情引れりや
 せし御疑ハ猶もつサハの昔より弓箭の家小生る者義小
 依ると又子兄弟敵となり鋒尖を争事跡。只為義内裏の
 召ふも應せど院の御味方仕る。別義小を某已小齡ひ七旬小傾た
 強らぬも言えむ重た抄物も振るひ。御用小。却
 老さ。若殿ホの足手。心苦。双方も御辞退
 中義小。言甲斐。某。思。度々御召成固辞仕
 ら。先々所望乃達せざるを遺恨小。具。義朝と敵々となんをいひ
 参。君。人。持。中八
 即為朝幸ひ。頃日筑紫より上京。在。某。各代。御味方小
 進せぬ。某が子の事を自負仕る。嗚呼。為朝一人院の味方

仕らむ。自余の兵十萬騎も勝れ、口管某が我の恩免を願ふ。ついで、固
く辞退ふ。どちか、多実清も、やされ、賢息為朝の武勇絶倫なる。六
大和童も、ゆり、御味方に進せられ、妻何よりの幸ひなり。然、あれど
流石、小敷度の院宣也。一度も院希せ、居ながら、御辞退、やられん。こゝ君臣の
礼、お似たり。下官と、白河御所へ、参候し、左も右も、御辞退、不及、ま
いと、やされ、今、六為義も、當座の理、お押、已事、成得、子息、四郎、左衛門
頼賢、五郎、掃部、助、頼仲、六郎、加茂、為宗、七郎、為成、八郎、為朝、九郎、為仲、以上、六人
を、召具し、実清と、同道し、白河殿へ、参向し、新院、殊、御、欣、悦、洩、し、こ
御、簾、近く、召、御、懇、の、院、令、の上、即時、近、江、國、伊、庭、庄、美、濃、國、吉、栞、庄、を
賜り、即ち、判、官、代、小、補、上、北面、小、候、と、な、り、成、能、登、守、家、長、を、り、仰
下、さ、猶、當、座、の、御、引、出、物、として、代々、御、秘、藏、あ、せ、ら、る、鶺、鴒、の、御、劔、を
と、下、され、お、抑、此、鶺、鴒、の、宝、劔、と、ハ、往、昔、白、河、院、神、泉、苑、小、御、幸、す、御、

搦、樂、の、後、お、鶺、鴒、使、を、睿、覽、あ、せ、ら、れ、る、殊、小、逸、物、と、申、す、荒、鶺、何
ろ、二、三、尺、許、り、や、有、ん、と、足、の、物、成、被、上、ハ、落、被、上、ハ、落、と、り、數、度、小、及
ふ、と、主、上、を、ち、ま、り、當、座、小、在、の、公、卿、怪、と、申、す、処、小、遂、小、合、て、上、り、り
人々、是、成、把、り、る、長、覆、輪、の、太、刀、かり、を、緒、人、奇、異、の、思、成、り、主、上
も、不、測、の、思、召、還、御、の、後、磨、せ、御、覽、あ、る、吉、家、と、抄、銘、あり、渠、ハ、三、条、小
鍛、冶、京、近、の、子、也、又、小、方、ら、各、道、を、れ、二、ヶ、死、天下、の、重、宝、よ、と、鶺、鴒、
と、劔、銘、を、号、せ、お、御、秘、藏、有、り、後、小、鳥、羽、院、傳、を、お、古、院、と、新
院、へ、進、し、せ、お、一、靈、劔、を、成、今、六、為、義、賜、り、る、なり、誠、小、當、座、の、面
目、家、の、規、模、と、美、ぬ、者、も、な、り、り、り

水曾義仲勲功圖前編卷之一畢

